

皆さんの医療費は…!?

平成24年度、平成25年5月の受診状況から



共済組合では「医療費適正化対策事業」の一環として、平成24年度及び平成25年5月分のレセプト(診療報酬明細書)をもとに、19種類の病類別で医療費統計を行いました。年間を通した医療費統計ではありませんので詳細な傾向がわかるわけではありませんが、どのような病気で病院にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような病類が多いのかなどの目安になります。また、組合員の皆さまには年2回の医療費通知を行っておりますので、日頃から医療費への関心をもっていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

1ヶ月の総医療費

平成25年5月の総医療費は約13億3,231万円で、前年同月と比較すると-2.2%となっています。

伸び率を年齢階層別にみると、34歳までの若年層と50歳以上の高齢層に減少の傾向があり、35歳～49歳に増加の傾向がみられ、特に40歳～44歳で高い伸び率を示しています。

平成25年5月	平成24年5月	前年比(%)
1,332,316千円	1,362,690千円	-2.2%

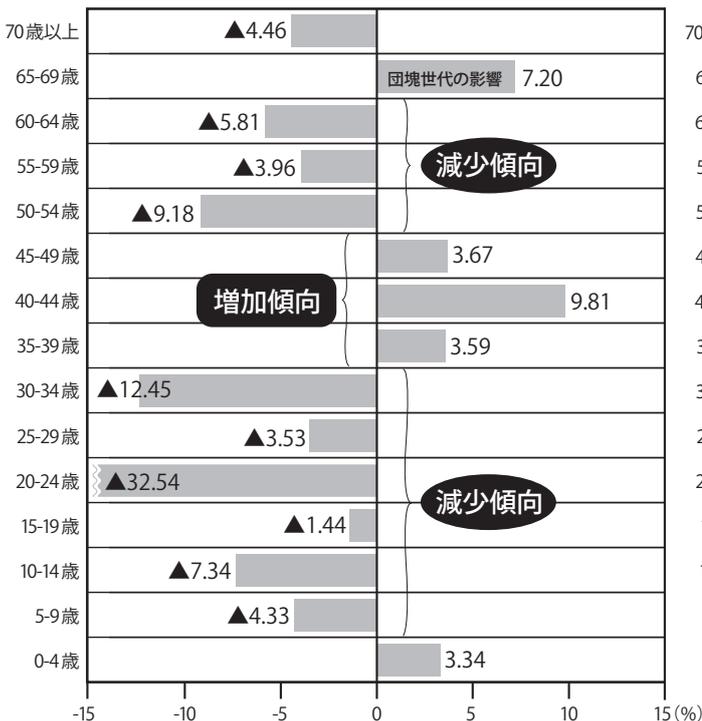
1人当たりの医療費

平成25年5月の1人当たりの医療費は約11,929円で、前年同月と比較すると-1.2%となっています。

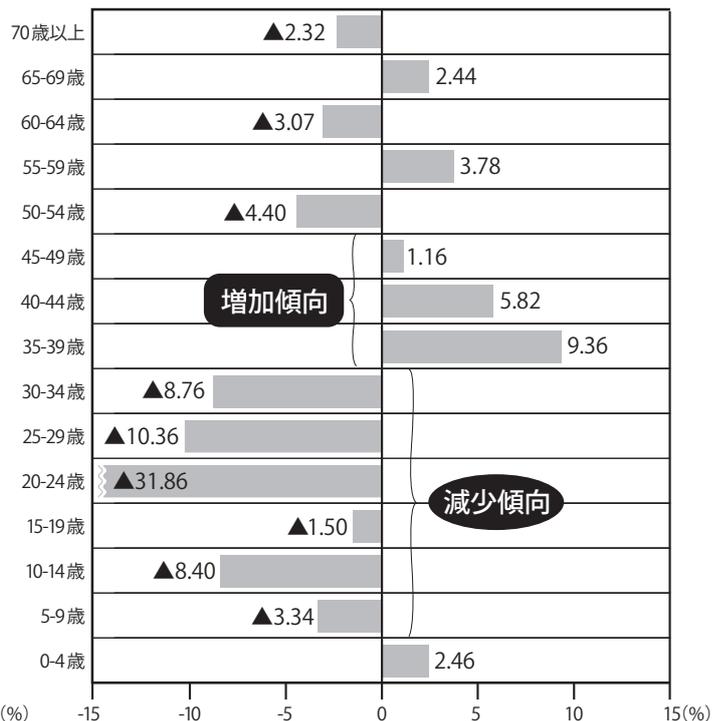
年齢階層別の伸び率は総医療費と同様に若年層と高齢層に減少の傾向、35歳～49歳に増加の傾向がみられます。特に35歳～39歳で高い伸び率を示しています。

平成25年5月	平成24年5月	前年比(%)
11,929円	12,074円	-1.2%

●平成24年5月に対する平成25年5月の前年比(%)



●平成24年5月に対する平成25年5月の前年比(%)

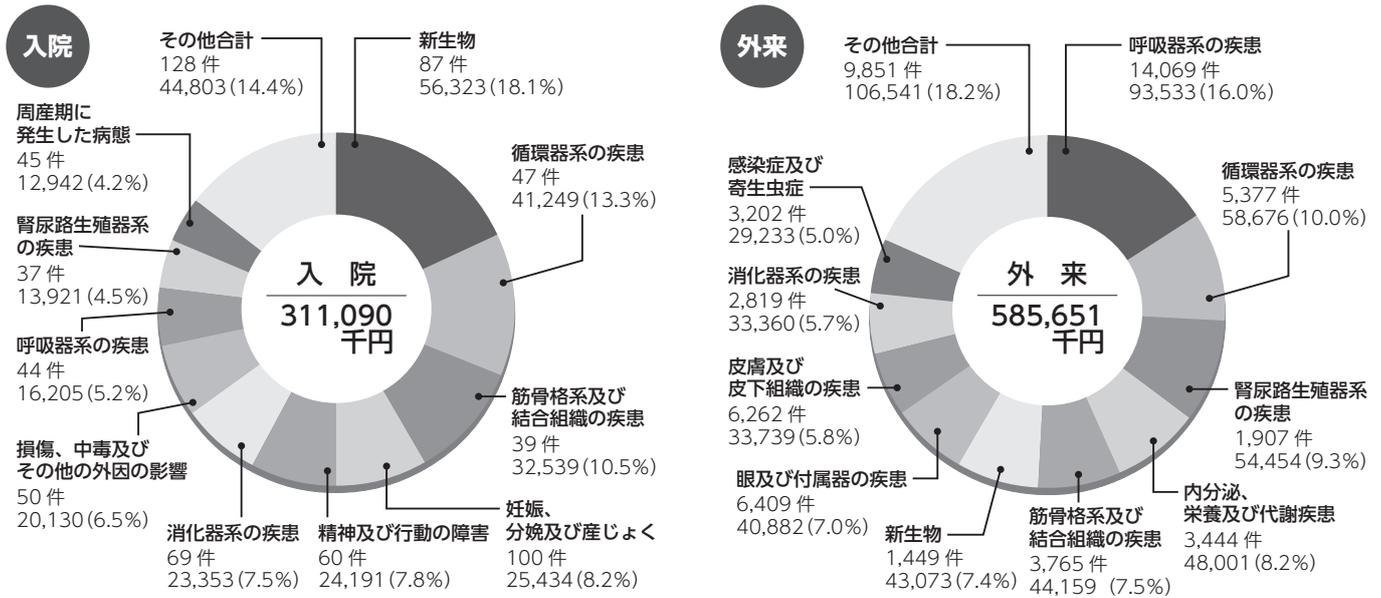


医療費を疾病分類別にみると

入院と外来における医療費を疾病分類別にみると、入院では治療自体が高額で、長期治療が必要な「新生物」(主にがん)が全体の約18%を占め1位となっています。2位は高血圧や心疾患など治療が高額になる「循環器系の疾患」が約13%、3位には関節症を含む「筋骨格系の疾患」が約10%となっています。

外来ではかぜやアレルギー性鼻炎などを含む「呼吸器系の疾患」が件数、医療費とも1位で全体の16%を占めています。2位は「循環器系の疾患」が約10%、3位は腎不全などを含む「腎尿路生殖器系の疾患」が約9.3%となっています。

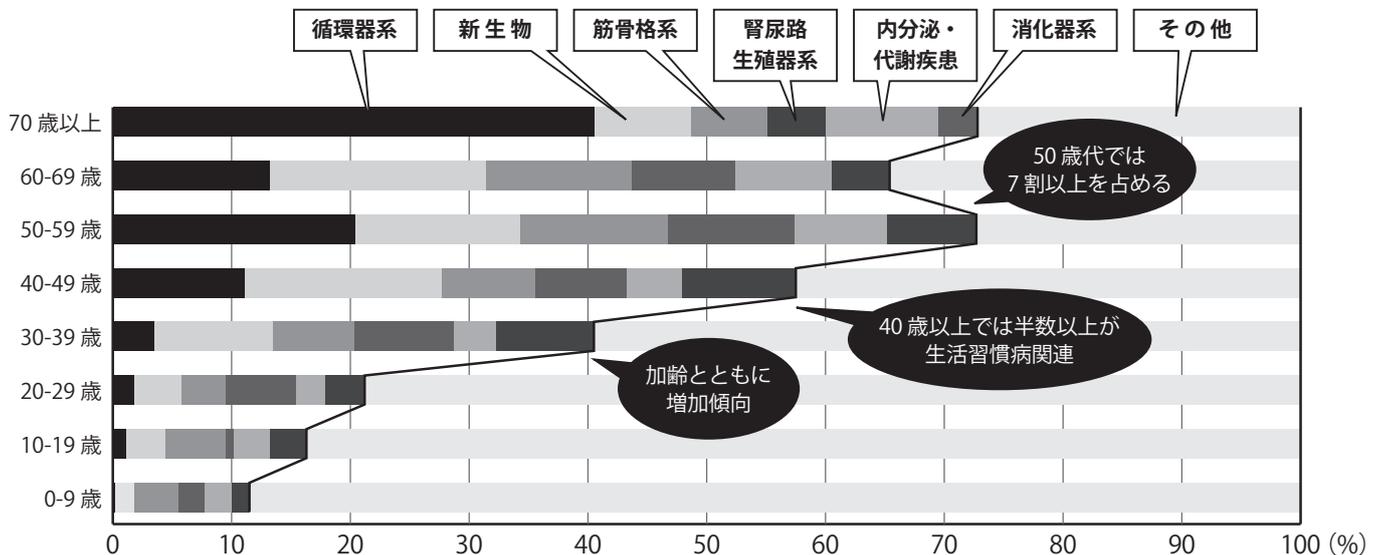
医療費の額と構成割合(単位：千円)



年齢階層ごとに疾病分類をみると

日本人の死因別死亡割合は、がんや高血圧症、心筋梗塞などを含む生活習慣病が約6割を占めています。このことから、生活習慣病に着目し、年齢階層ごとに疾病分類をまとめました。

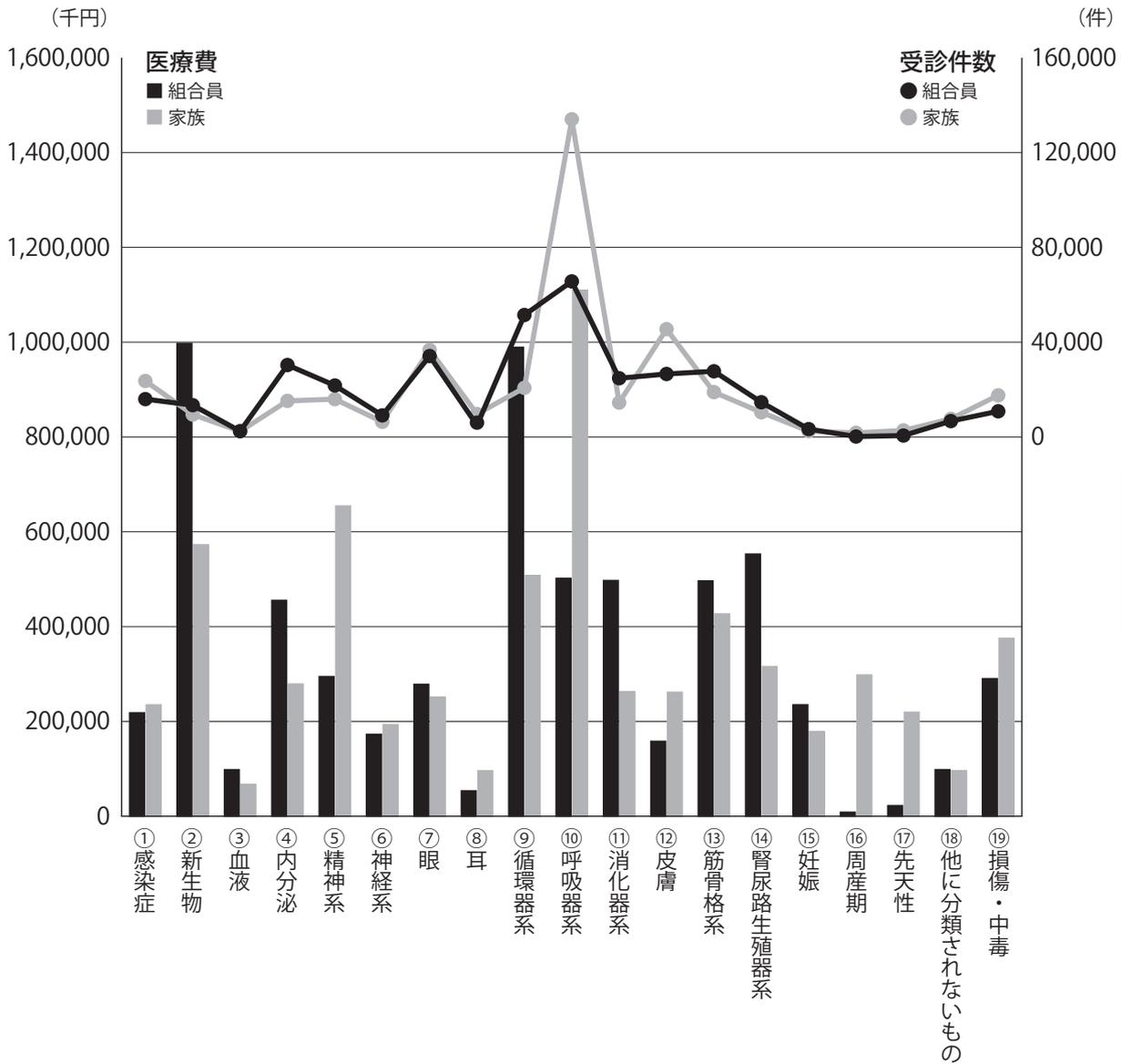
グラフからもわかるとおり、生活習慣病関連の疾病は加齢とともに増加し、30歳以上では4割を超え、さらに40歳以上になると5割、50歳代では7割を超えています。



平成24年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計では「呼吸器系の疾患」が件数、医療費ともにトップで、「新生物」、「循環器系の疾患」、「精神系の疾患」と続きます。

組合員で見ると「新生物」、「循環器系の疾患」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」、「精神系の疾患」、「新生物」の医療費が多くなっています。また、近年増加がみられる疾病として統合失調症やうつ病を含む「精神系の疾患」を挙げることができます。特に家族の精神系の疾患が高いことがわかります。



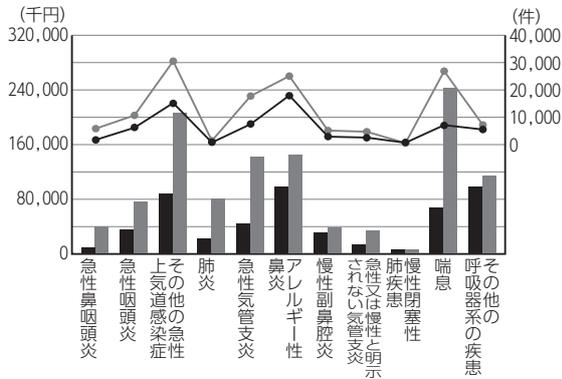
医療費の上位4つの病類をさらに詳しく分析すると…

項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	むし歯、胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ 分類否	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど

呼吸器系の疾患

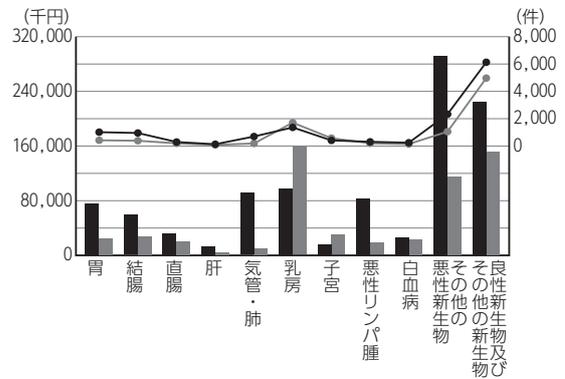
呼吸器系の疾患ではかぜ、アレルギー性鼻炎、喘息が件数、医療費ともに多くなっています。組合員はアレルギー性鼻炎、家族は喘息がトップです。



▶ かぜに負けない体力づくりと、しっかりとした手洗い、うがいでかぜを予防しましょう

新生物

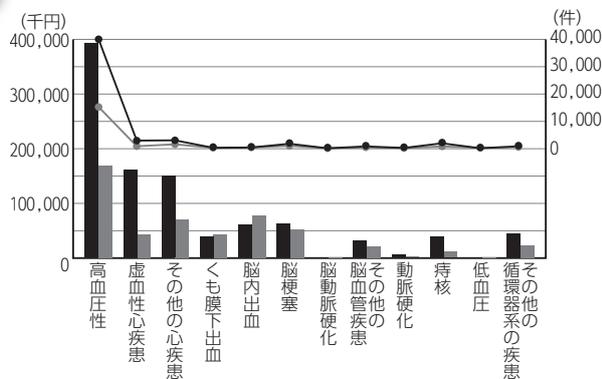
新生物では乳房のがんが件数、医療費ともにとび抜けて多く、次に胃、気管・肺、悪性リンパ腫の順となっています。



▶ 早期の発見が大切です。自覚症状がなくても定期的に検診を受けましょう

循環器系の疾患

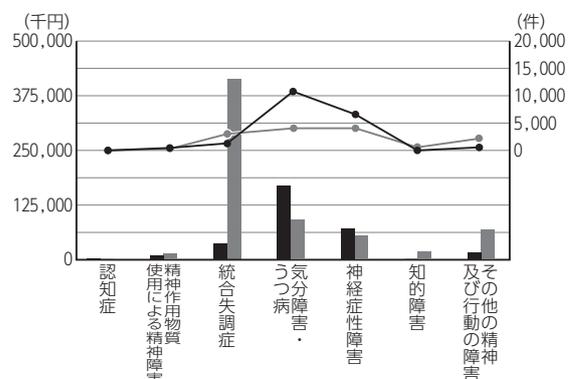
医療費の約1/3を占めている高血圧が件数、医療費ともトップです。組合員では動脈硬化等の心疾患が多く、家族は脳内出血が多くみられます。



▶ 正しい食生活や適度な運動など、からだに良い習慣を身につけ、生活習慣病を予防しましょう

精神系の疾患

精神系の疾患では統合失調症が医療費の約5割を占めます。件数は低いものの治療が長期間にわたるため、医療費が多くなっています。



▶ 統合失調症は稀な病気ではありません。早期発見と適切な治療で回復までの時間も早まります

これまでの統計・分析から依然として高血圧やがん、心疾患などの生活習慣病関連の医療費が多いことがわかります。また、その一方でかぜやアレルギー性鼻炎など身近な病気も件数が多いことから医療費が多くなっています。

生活習慣病は肥満から高血圧症、脂質異常症、糖尿病などに進行することで重症化を招き、その医療費も高額になります。年に一度は健診を受け、運動や食事、喫煙、飲酒など、日頃の生活習慣を見直し、元気で健康的な暮らしを目指しましょう。